

立教 188 年 4 月 25 日

直属学生担当委員長 各位

天理教学生担当委員会

学生生徒修養会 受講生の受け入れについて

日頃は、学生層の育成の上にご尽力くださり、誠にありがとうございます。

学生生徒修養会開催の上には、一人でも多くの学生・生徒をおちばへお連れしようと、熱心に声かけをいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。

さて、学生生徒修養会では、可能な限り全員受講していただけるよう鋭意努力を重ねておりますが、近年様々な事情で合宿生活やグループでの活動が困難な方や、学修の運営に支障をきたすほどの世話取りを必要とするケースが増加しており、募集要項にも「プログラムへの参加が著しく困難な方は受講をお断りする場合があります」と記載させていただいています。

もちろん出来る限りのサポートをさせていただいておりますが、限られた施設と限られた人員の中で運営する行事であることから、一人の学生・生徒に対してスタッフがかりきりになることは非常に厳しいのが現状です。これまでも、様々なケースについてご相談いただき、その都度対応を講じてまいりましたが、受講生の身に及ぶ危険やトラブルを未然に防ぐためにも、学修の受け入れに関する基本的なスタンスを各直属委員長と共有し、対応を講じてまいりたいと存じますので、何卒ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

<身体疾患、ハンディキャップについて>

団体生活、合宿生活を送ることができ、基本的に身の回りのことは自分でできる。

- ・命に関わる病状の悪化や発作の恐れがない。
- ・周囲の人とのコミュニケーションが取れる。

<知的ハンディキャップについて>

団体生活、合宿生活を送ることができ、基本的に身の回りのことは自分でできる。

- ・周囲の人とのコミュニケーションが取れる。
- ・マンツーマンでの付き添い・お世話どりの必要がない。

<精神の状態について>

人命に関わる危険がありますので、精神面の状態に関しては以下の項目について慎重に検討し、状態・程度によっては受講をお断りする場合があります。

- ・自傷、他害のリスクがある場合
- ・脱走などの危険行動を行う可能性がある場合
- ・精神科系の薬が処方されているにも関わらず服薬を拒否している場合
- ・学修のプログラムおよび集団生活の中で、心的外傷体験のフラッシュバックが起こる可能性がある場合

<発達障害について>

団体生活、合宿生活を送ることができ、基本的に身の回りのことは自分でできる。

- ・周囲の人とのコミュニケーションが取れる。
- ・グループワークやプログラムの進行を妨げない。
- ・講話の時間やグループワーク中に興奮状態になったり気分が悪くなったりした場合などに、その場から移動するなどすれば落ち着くことができる。

<トランスジェンダーについて>

個別に対応いたしますが、トラブルを避けるため、性別違和のある方は、身体の性別を基にした宿舎に宿泊をお願いしています。その場合、出来る限り他の受講生とは別室を用意し、入浴も個別にさせていただきます。

身体の性別を基にした宿舎に宿泊出来ない場合は、申し訳ありませんが、原則として受講をお断りします。

※尚、相談の上、付き添いをお願いする場合があります。付き添いは受講生のご家族の方でお願いします。付き添いがある場合は受講生ともに詰所泊をお願いします。また、班でのグループタイム中は、室外で待機して頂くことがありますので予め承知おきください。